ブレインハッキングの原理

Toshiaki Fukusima

2024 年 7 月 14 日

目 次

1 ブレインハッキングの原理 3
2 過去の記憶から 8
3 思考盗聴器 13
4 軍事機密 15
5 未来が見える原理 16
6 未来の情報 17

1　ブレインハッキングの原理

集団ストーカー被害，ハイテクを駆使した付き纏い行為（思考盗聴などハイテク犯罪被害）を受けるようになり，その装置の仕組み（思考盗聴の原理）を考えるようになりました.
当初は強力な電磁波（ミリ波，テラヘルツ波，ガンマ線，中性子線？）が用いられていると仮定していたのですが，物質に対する透過度がとても高い事や，物理的な攻撃が可能な事など，普通の意味の電磁波では説明のできない現象が発生している事に気付きました．そこで新しい仮説を考えました.

加速器により発生するニュートリノ線と量子ジャイロスコープと言う加速器の検出装置を用いる事で思考盗聴が可能なのではないのかと考えるようになりました.
大型加速器を用いる事で強力なニュートリノ線を発生させる事が可能であり，また，加速器内に備えられている検出器である量子ジャイロスコープにより，結果としてニュートリノ線を検出する事ができるものと考えています.

二つのニュートリノ線が干渉する（交差する）と元の位置に戻ってくる（180 度反転した方向に進む）性質があると仮定しており，この事を回生波が発生すると表現しています.
干渉し，回生したニュートリノ線には，その場所の物質の状態情報が含まれる.
回生したニュートリノ線自体を検出する事は量子ジャイロスコープではできないと考えていますが，工夫をする事で可能になると思います.
回生し，加速器内に戻って来たニュートリノ線に対して，タイミングを合わせて，別のニュートリノ線を発生させ，再度干渉させることで，量子ジャイロスコープで検出可能な素粒子が発生します.（後発の粒子線が多重粒子崩壊を起こすために）
この素粒子には回生したニュートリノ線が持っていた情報が反映されているため，結果としてニュートリノ線を利用して物体の状態を知る事が可能となります．つまり，光で物を見る事ができるのと同じように物体を見る事が可能となると考えています.
物体の状態を詳細に知る事ができる原理と考えており，例えば，脳細胞が発する微弱な電圧や磁気などを検出できるものと考えています.

ニュートリノ線仮説

前提条件などを含めて，現在までの仮説

1. ニュートリノ線は光ではなく物質波である．つまり，質量を持つ素粒子の流れである.
2. 大型の加速器を使用する事で強力なニュートリノ線を発生する事ができる．これは恐らく，ミュー電子と陽子を逆方向に加速して，衝突させる事で，高エネルギー状態のニュートリノ線を得ていると考えています.

3. 特殊相対性理論を前提にして，ニュートリノ線を発生する際，その強さを変える事により，後方波は前方波を追い抜く事ができる．つまり，伝搬スピードを変える事ができニュートリノ線同士の干渉を起こせる．

4. 量子ジャイロスコープの入出力特性はカーディナルサイン特性[1)]を持ち，映像情報をそのまま再現できる原理がある．

5. 後方波の出力を強力なものと仮定し，高エネルギー状態のニュートリノ線が干渉する際に（相対性理論的な質量による）重力場を持つ粒子同士での衝突が起こり，四方八方に分散し回生波が生じる．つまり，加速器に戻ってくる（一部分が）ニュートリノ線がある．干渉が発生する場所の物理的な特性が回生波に反映される．干渉した場所の電圧状態や磁気などの情報が反映され（エネルギー状態の僅かな違いが反映される），回生波に物質（回生波の発生した場所の）の状態情報が含まれると考えている．脳内の微弱な磁気などは時間的に変異しているので，得られた画像の差分を取る事で検出が可能となります．

   磁場の強さを直接検出する事できないが，結果論として電流を検出する事が出来ると考えています．自由電子による電流が流れると，ジュール熱により原子力間に歪が発生し，結果として微弱なフォノン振動が発生すると考えています．ニュートリノ粒子が重力を介して衝突する際に，フォノン振動による重力の加速を受けて，角加速度に影響が出ます．この僅かな角速度の変化を，後発のニュートリノ線の持つエネルギーを調節する事で回生する事ができると考えています．あるいは，一般相対性理論によれば，温度の高い環境の方が，時間の進みが遅くなり，ニュートリノ粒子の軌道に影響があるとも言えます．

6. 相対論的な質量を持つニュートリノ線の干渉波により，重力を介して粒子が衝突して，回転運動するニュートリノ粒子群が発生します．この粒子群により，周辺にある素粒子が振動し，その際に電磁気波，フォノン振動（超音波）が発生する．複数の後発干渉波を連続発生させる事により共鳴増幅ができ，任意の場所で任意の波長の電磁気波，音波（物質を伝搬する強力な振動波，フォノンなど）を発生させる事ができると考えている．このニュートリノ粒子が陽子，中性子の質量と同程度の運動エネルギーを与える場合は，大きなフォノン振動が発生し，陽子や中性子を弾き飛ばします．

   ニュートリノ線の干渉波により，重力を介して，ニュートリノ粒子が衝突して，複雑な分散が発生します．その中にはニュートリノ粒子の持つエネルギーにより，決まった角速度を持った楕円や円状に回転をする粒子群があると考えています．回転する周期に依存した共鳴現象があり，電子や陽子のエネルギー状態に応じた影響が及ぶと考えています．例えば，自由電子を生み出すなどです．

[1)] 音声では周波数毎の位相差が生じても問題ではありませんが，映像の場合，その位相差は非常に重要な要件となり得ます．位相差が生じると画像が再現されないのです．

この原理で，超々音波を発生させ，人体を物理的に攻撃する事が可能になっていると考えています.

7. 検出器である量子ジャイロスコープを用いる事で回生したニュートリノ線を検出できる．その際には，再びニュートリノ線を発生させ,（量子ジャイロスコープ内で）回生したニュートリノ線と干渉させる．高エネルギーニュートリノ線の持つ重力場（相対論的質量による）の干渉により，衝突したニュートリノ粒子が減速し停止（あるいは，その場で回転運動をする），後発のニュートリノが多重粒子崩壊の結果，量子ジャイロスコープで検出可能な素粒子が発生する．衝突しなかったニュートリノは検出の範囲を超えてしまいます．つまり，回生したニュートリノと後発のニュートリノが衝突した場合，その場に止まる事の時間差があれば良い訳です.

8. 距離の差と時間タイミングの異なる二つのニュートリノ線を干渉させる事で目的の場所をセンシングする事ができると考えている.
図 1 のように A 点でニュートリノ線を発生させ，時間を遅らせて B 点にてニュートリノ線を発生させる．二つのニュートリノ線は干渉し合い，赤のラインのニュートリノ線は分散して消える.
前方波を青のラインとする事で必要な場所の情報が得られる原理となる.

9. 脳から得られた情報は，ニュートリノ線を変調して微弱な磁気波の振動に変換してから，直接，異なる脳に与える事で分析などをせずに情報を利用する事ができるものと考えている．量子ジャイロスコープには入出力特性が位相線形特性（カーディナル・サイン特性）を持つため，音声はもちろん，映像情報なども再現する事が可能な原理があると考えます.
高出力，高速なニュートリノが干渉し合い，回転運動をするニュートリノ粒子が発生し，質量の歪場が発生する．この空間の歪が，電子を弾き飛ばすために，微弱な電磁気場を形成する事ができます．もっと大きな相対論的質量を持つニュートリノの場合は，原子核，陽子，中性子なども振動させる事ができ，フォノン振動（超音波）が発生します．勿論，電子も弾き飛ばします.

10. 何故，ニュートリノ線の干渉で回生波が生じるのか？　恐らく，高エネルギー状態のニュートリノは相対性理論で言う所の重力場（相対論的質量により）の歪が発生し，また，その歪は広範囲に及び，重力を通して絡み合うからだと思います．また，何故，素粒子が発生するのか？　高エネルギー状態のニュートリノ粒子の後方に，相対性理論で言う重力場を生じ，回生したニュートリノと反応（衝突し）し，スピードが減速します.（つまり，逆方向の粒子が衝突し合う）この間に 後発の高エネルギーニュートリノ線は，その場で多重粒子崩壊（多重粒子現象）を起こすためだと考えています．衝突しなかった粒子は量子ジャイロスコープで検出可能な範囲を超えてしまいます.

11. 高エネルギー状態のニュートリノ線は，相対性理論で言う所の（相対論的質量による）重力場を持ち，自動的に自己収束する特徴があると考えています．また，干渉波が回生波を生み出すのも，その重力に依存した現象と考えています．実際に回生波を得る際には，スペクトラム拡散と言う方法で時間軸に対してランダムになるような変調方法を採用します．回生波から信号を検出する際には，スペクトル拡散に用いた変調に合わせて相関処理を施し，情報を再現します．

また，ビームをテレビ（ブラウン管時代の）やオシロスコープの様に掃引し，場所位置的なマスクを用いてビームを分割してから（入射器の時点で），ビームを加速，収束し，ニュートリノ線を発生させます．検出の際には同じマスクを用いたビームで発生するニュートリノ線で検出する事で，相関処理を利用する事ができます．これ等の相関処理は他の加速器との干渉を防ぐためにも必要です．また，ニュートリノ線は非常に大きいバックグラウンドがありますので相関処理はとても重要な処理となります．

この後，更に，逆フィルターを用いて，デコンボリューションを計算して最終的な立体情報を得ます．

12. 光の速度に非常に近いスピードで飛ぶ，高エネルギー状態のニュートリノ粒子は，一般相対性理論と特殊相対性理論の両方の理論を考慮する必要があると考えています．相対するスピードを持つ系でも，静止している系でも，物理現象はそれぞれの系で同じです．しかし，一般相対性理論では，高速度で高エネルギー状態の粒子の方が，計算上，引き合う重力が大きくなります．その様な相対的な粒子（高速な）は，重力場の歪が大きくなり，引き合う重力が増します．ニュートリノ線が光に近いスピードで進む場合には，その後方に重力場の歪を残して行きます．多数の粒子が後方に重力場の歪を残すので，その歪みに沿って粒子は収束する経路を進むと考えています．

ほぼ光の速度で伝搬するニュートリノ粒子の持つ相対論的質量のため空間の歪はとても大きいものとなると考えています．

13. 私たちの属する銀河系と，すぐお隣のアンドロメダ銀河は重力によって引き合い衝突すると考えられています．現在から 40 億年後の事です．しかし，星同士の間隔は非常に広いため，星同士が衝突する事はないと言われます．銀河同士の持つ質量によりお互いに引き合う分けですが，星同士がぶつからないのは不思議な気もします．ニュートリノ線内の粒子同士もこれと同じです．光のスピードに極めて近いニュートリノ粒子は相対性理論を前提とすると極めて重い質量をもつ事になります．この質量を介してスピードの遅いニュートリノ粒子（前方波）と後方波（スピードの速い方）の間で衝突が起こると考えています．これは，恐らく，前方波が四方八方に飛び散り，その一部分が加速器の方向へ回生する事になると考えています．

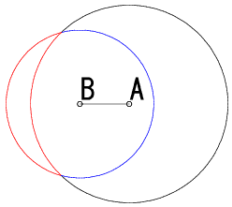

図 1: センシング

2　過去の記憶から

子供の頃から不思議な声が聞こえていた事を色々と思い出しました．と言っても，その当時は，そう言うものだと思っていたので不思議な事とは考えていませんでした．現在は，加速器による放送だったと思っている訳ですが …　ここに記述した以外にも不思議な記憶が沢山あります.

頭の中に数式が浮かんでいた　小学生低学年ぐらいの時の記憶だと思います．私たち家族が住んでいた一軒家には土が露出した庭がありました．よく石を用いて土の上に絵をかいて遊んでいましたが，頭の中に高等数学を記述した数式が浮かび上がり，地面にその数式を書いていたのです.
二人の中年女性の声が聞こえ,「その数式を地面に書いてはダメだ」と言われていました．はっきりと覚えているのですが，この声は，頭の中で聞こえる声であり，音波としての音声ではなかったのです.

父親にその数式の一部[2)]を書いて見せると，不思議そうな顔をし,「何処かの本で見たんだろう」と言っていました.「学校で習う事になるのだ」とも.

今考えると，子供の頃から数学に興味を持つように教育を施したかったのだと思います．恐らく，複雑な計算をできるようになったら利用したかったのでしょう.
中年女性の声で「この子は書いてしまうから駄目だ」と言われ，それ以来，数式が頭に浮かぶ事はなかったと記憶しています.

加速器を用いて直接，脳に情報を送る技術は完成されており，音声だけでなく映像を送る事もできるのだと考えています.

国歌を歌うように声が聞こえていた　小学生の時の記憶ですが，母親と妹，自分の三人で強制されて国歌を歌わされた事があります．国歌を歌うように声が聞こえており，仕方なく母親が立ち上がり，声に従って国歌を歌い始めました．それにつれて私と妹も立ち上がり，三人並んで，うろ覚えの国歌を歌ったのです.

私たち家族以外の声が聞こえていたわけですが，しかし，その音声はひどいノイズ混じりの音声だった事を覚えています．この声はスピーカなどによる音声とは異なるものでした.

加速器が乗っ取られた　女性の声で,「加速器が乗っ取られた」と言う声が聞こえていたのを覚えています．その時は，何の事なのか訳がわからなかったのですが，音声を直接，脳に送信

[2)] 関数を表す f と，積分記号 $\oint$ の違いが分からずに，父親に問いをしたわけです．子供には，横線と丸が異なるだけの同じような記号に見えたと記憶しています.

する際には加速器が使用されていて，その装置を取り上げられてしまった．と言う意味だと解釈しています.

複数の大きなグループが加速器を使用して人々に影響を与えていた時代があると考えていますが，その一グループが消えてしまった事になります.
加速器の使い方次第では悪影響があるわけですので，いっそのこと複数のグループが存在する方が安定な方向に作用するのではないのかと思っています．個人的には残念だと感じています.
現時点では，問題があっても，警察が取り締まれないような無法状態なわけですので，少しでも多くの人が関与する方が良いのではないのかと感じているのです.

耳鳴りがするようになるとサポートが切れる　鉱山で仕事するとか，煙草の吸い過ぎによって肺が汚れてしまい，血液中の酸素濃度が下がると耳鳴りがするようになり,「サポートが切れてしまう」のだと聞いた事があります.
サポートとはいったい何の事なのかよく分からないのですが，加速器を駆使して人同士を結び付けて情報を与えている．若しくは高度な医療を施す事ができる．と言うような意味ではないのかと考えています.
サポートが切れると，その個人を多人数で追い掛け回していたようです．音楽混じりの慌ただしい人々の声が聞こえると,「また一人犠牲者が出るのだ」とも言っていたのを覚えています.

実際の所，何故，犠牲者がでるのかよく分からないのですが，加害者等には一定の基準のようなものがあり，条件が満たされると集団で個人を追い立てるような事をしているようです.
これは，正に集団ストーカーであり，被害者が何をしたにしても許されるべき行為ではありません.

物的証拠がなく，法律的に取り締まる事が難しい上に，ターゲットになる条件が分からないので，対処のしようがないので，一人でも多くの被害者が被害を訴えて行く以外に方法がないのが残念です.
被害を訴えても精神障碍者扱いを受けてしまう事は分かっていますが，それでも，そうせざるを得ない訳です.

大騒ぎの加速器放送　とても騒がしい様子の加速器による放送がなされていました．大勢で一人の女性を追い掛け回していたようです．何故，その人物がターゲットになったのかと尋ねると,「子供を殺したからだ」との返答がありました.「本当に子供を殺したのか？」と問い直すと，調べに行ったようです．暫くしてから「分らない」と返答がありました．私はその時点で関心を失ってしまいました．しかし，彼らは慌ただしく加速器放送に夢中な様子でした.

この記憶で思い出されるのは女子高生コンクリート埋め事件なのですが，その女高生がターゲットなのかは分からないのですが，しかし，時期が一致している事もあり，私にはその事件

絡みの騒ぎだったように思えるのです．何方にしても被害者の冥福を祈らざるを得ません．

深夜のテレビ放送　テレビ放送がまだ白黒だった時代の話なのですが，深夜に放送されていた不思議な番組がありました．犯罪者だとする人物を多人数で追い掛け回し，しかし，その人物が逃げ回るのをみんなで応援するというものでした．

母親が好んで見ていた番組だったのですが，上空から撮影された映像に，父親が「どのような方法で上空から撮影しているのだろうか？」と疑問を投げかけ，方法（上空からの撮影）が分からずに不思議そうな顔をしていたのを覚えています．

私の記憶の中では，とても不思議な映像だったわけですが，この映像は恐らく加速器によって得られたものだと思います．30 分から一時間位の放映時間だったと思いますが，その間，ずっと，上空から撮影（カメラ位置が地上から 10 メートル位の高さ）された映像だったわけです．

複数の集団が音声を送っていた　思考を盗聴する事が可能であり，また，音声，映像を直接，脳に与える[3] 事が可能な技術を持つ複数の集団が存在し，それぞれ異なる立場から人々に影響を与えていたと考えています．
例えば，子供の頃の記憶では「深夜のテレビ放送」2 が放映し終えると，その直後に，テレビに文字が映し出されていました．「集団で個人を追い掛け回すような事は良くない」と言うものです．
当時，私は子供でしたのでその文字が読めませんでした．そこで，母親に何が書かれているのかと尋ねた事を覚えています．その意味が分かると，私はその番組に対する興味を失い，それ以後，その番組を見た記憶がありません．それでも母親はその番組を見ていたようですが，暫くするとその番組は放映されなくなったと記憶しています．

論理的に考えてみて，テレビ放映には少なくとも二つのグループが関与していると考えられる訳です．

加速器を用いて，テレビカメラで撮影したような綺麗な映像を得る事ができるのだと考えています．

何故，複数の集団が関与していたと考えているのかと言う事ですが，恐らく加速器を使用して，脳に直接情報を送っている時は，グループ毎に同じオペレーターの声が聞こえており，それぞれの立場からでしょうか，異なる思想が感じ取れ，また，独特な声質やノイズが混じるわけです．

新生児への実験　子供たちを対象に加速器を用いて脳波を操作するような実験を行っていたようです．それにより，「新生児達の呼吸が揃った．全員の呼吸が同期した．」との声が聞こえ

[3] ニュートリノ線の干渉波により，微弱な電圧か，若しくは磁気を発生させ，脳に直接情報を送る事．

ていました．何かの実験に成功したと言わんばかりの放送がなされていました．
しかし，暫くすると様子が一転します.「子供たちが口から泡を吹いてしまった．大変なことになった.」と言って大騒ぎでした．その後，子供たちがどうなったのかは分かりませんが，恐らく，同じ過ちは繰り返さない事でしょう．

量子ジャイロスコープ，ニュートリノ線　直接，脳で，思考をやり取りする事が可能な技術が存在しており，また，その技術を駆使して，その技術に関する勉強会のような思考放送（脳に直接情報を送る）がなされていたのを覚えています．
はっきり覚えているのは「何とか？ジャイロスコープ」と「ニュートリノ線は，二通りの線と覚えておくのだ！」と言うものです．しかし，この記憶が思い起こされるまでには数十年以上の時間を必要としました．
当初，思考盗聴器の仕組みを知りたく，SQUID と言う超高感度の磁気センサーを疑ったり，巨大なアンテナを探したり，衛星の仕組みを調べたりしていたのですが，偶然に発見した LHC の量子ジャイロスコープの仕組みを理解した途端，これだ！ と閃きました．そして，過去の記憶が思い起こされ，徐々に，大型加速器が思考盗聴器だと考えるようになったのです．

バイク事故　この記憶は助けられた時のものなので，ここに書くべきか迷ったのですが，不思議な体験なので，あえて記述する事にしました．

18 歳位の時の記憶なのだが，バイクで高速道路を走っている時，体重移動をせずに急ハンドルを取り，一瞬にして車体が傾き，横転し，事故を起こす所だった．この時点では単独事故になるはずだったが，次の瞬間，オートバイと身体が別々に空中に持ち上がり，暫くの間，空中を漂う事となった．結局，体とオートバイの車体が何事も無かったかのように合体し，再び高速道路上を走行する状態となった．
気を取り戻すと，スピードを上げて走り去ろうとした．その時，ビルの谷間から（どこからともなく聞こえる）女性の声で，危険な運転をしないように正すような大きな声が聞こえていた．

どの様な原理なのか分からないのだが，遠隔地から物体を持ち上げるような原理[4)] が存在するようだ．

この事故？ には続きがある．実は，転倒直前の状態までは記憶がはっきりしているのだが，再び高速道路を直進している時までの，空中に浮かんでいる時の記憶が喪失していたのである．恐らく，記憶を操作し，事故の記憶が残らいないように記憶を操作された可能性が高い．しかし，数十年の時を経て，空中にオートバイごと持ち上げられた事を思い出したのである．

[4)] どの様な原理で空中に物体を持ち上げる事ができるのかよく分からないのだが，憶測の域を出ない発言をするなら，重力子（グラビトン）をコントロールする事が可能であり，重い物体を空中に持ち上げる事ができるのかも知れない．

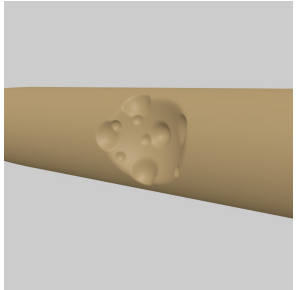

図 2: 指にできた凹みの説明図

指にできた凹み　右手の指に凹みを作られた事を思い出しました．凹んだ部分の大きさは 1 センチ程度で，大きさの異なる半球状の複数の凹みからなっていた．この凹みはとても不自然な形状の物であり，事故で車同士が衝突し窪みができた時のようにべっこりと凹んでいた．あるいはチーズにできる穴のような感じだろうか．骨にまで達するような凹みであったにも拘らず痛みなどはなかった．とても不思議な凹み方だった．凹んだ箇所の説明として CG を作成しました．図 2 を参照して下さい．

しばらくの間その現象を観察したのを覚えている．私の頭の中に浮かんでいたのは原理の事だった．相対論的な現象が起きていると思えたのである．写真を残せなかった事が悔やまれる．

形容の仕方がないのだが，思いつく原理が存在するとしては，重力子（グラビトン）をコントロールする事ができ，空間が歪むと言う事だろうか．

不思議な事にこの凹みは物体の性質であるかのように，手を動かしても位置などが移動せずに指の同じ場所に有った．この事は，明らかに，物体との電磁相互作用（作用？干渉？）が認められる現象である．また，保存力を持つ高エネルギー場 [5] が微小な空間に存在した事になる．

[5] 実際に高エネルギーなのかは不明ですが，あえて高エネルギー場と表現しました．

3　思考盗聴器

思考盗聴器の作動状態　思考盗聴器は非常に正確に作動し，此方の思考が彼方に正確に伝わり，また，反対に相手側の思考が此方に伝わっています.
眠っている時には分かりませんが，起きて意識がある時は一瞬たりとも途切れることなく作動しており，その正確さには驚いてしまいます.

加速器の仕組みにもよると思われますが，機能を維持する費用と電気代はそれなりの金額になると思います．思考盗聴が加速器により可能になると考えているわけですが，残念な事に，その詳細は分かっていません．ですので，一般的に言われる所の大型加速器を前提にして，総工費などを調べて見たいと思います.

検索キーワード「加速器　総工費」にて検索を掛けると，SPring-8（蓄積リング周長:1,436m）の総工費 1100 億円，年間電気代 19 億円とあります．岩手県と宮城県の県境に建設予定の ILC は全長が 20 キロ，総工費 8300 億円．スイスとフランスの国境沿いにある LHC の場合は，全周が約 26.6 キロ，総工費は約 1 兆円．年間電気消費量 1Twh（テラワットアワー），と言う事は 1kwh（キロワットアワー）を 30 円だと仮定して，年間電気代は．300 億円.

少し調べただけでも，大型加速器の場合，桁違いの総工費と電気代が必要なことが分かります．これだけの費用を賄える民間人が存在すると仮定して，やはり，特別な特権を持つ人々の存在が浮かび上がります.

思考盗聴に使用されている加速器のサイズを知りたい所ですが，私の予測では，恐らく，ミュー電子か，若しくは陽子を加速してターゲットにぶつけるか，ミュー電子と陽子を反対方向に加速してぶつけると言うような方法で，強力なニュートリノ線を発生させていると思います．中型以上の加速器を用いないと，十分なパワーを持つニュートリノ線が発生しないのではないのかとも考えます.

しかし，仮に 1000 万人の信者が存在し，一人当たり 1 万円を出し合うとすると，1000 億円にもなる分けですので，何処かの宗教団体規模になると，加速器を購入する資金を調達可能な事も確かです.

一台の大型加速器を用いて，時分割サービス[6)] を行い，複数のグループ（犯人）が同時にオペレーションを可能とし，複数の被害者に同時に危害を加えていると予測しています.

思考盗聴被害を訴える被害者の人数を考慮すると，被害者の数だけ加速器が存在すると考えるよりも，一台の加速器により複数の被害者がターゲットになっていると考える方が辻褄が合います.

[6)] 例えば，コンピューターのオペレーティングシステムの場合，複数のプログラムを同時に操作する事ができますが，これは，使用中のプログラム毎にサービスを高速に切り替えて，見かけ上，同時に並行して作動しているよう見せかけているのです.

一台の加速器の年間電気代を 10 億円と仮定して，また，100 グループが同時にオペレーションを行えるとすると，一つのグループが賄う電気代は 100 分の一ですので，年間の電気代は一千万円という事になります.

一グループが 1000 人で構成されていると仮定しますと，一人当たり，一日当たりの電気代は 1000,0000 円/1000 人/365 日 = 27.4 円/日/人，という事になります.

被害者が 2000 人存在し，一台の加速器で 100 人をターゲットにできるとすると，20 台の加速器が稼働している計算になります.

一グループが 1000 人と表現していますが，この人数は少し説明が必要です．1000 人で加害行為に及んでいるわけではなく，あくまでも数名のグループリーダーが存在しており，そのグループリーダーが加害の様子を複数の人たちに同時に配信（加速器放送）しており，その視聴者からお金を集めていると言う事です．つまり，視聴者が 1000 人居る事になります.

4　軍事機密

加速器に関する技術は「最高の軍事機密だ」と何かの本[7]に書かれていたのですが，その当時は何の事なのかさっぱり分かりませんでした．しかし，加速器が思考盗聴器の正体だとすると分かるような気もします.

加速器により粒子（陽子，電子，ミュー電子など）を加速する際，その粒子の最高速度は加速器のサイズに関係があり，また，粒子速度が光のスピードに近いほど優秀な装置だと言う事ですが，加速器を設計し，設計どうりの性能を出すにはそれなりの技術が必要な事は分かります．しかし，普通に考えてみて，その技術が最高軍事機密扱いになっていると言うのは，少し的外れな気もするのです．その使い方に依存した問題があり，軍事機密扱いされていると解釈するのが正しいと考えています.

LHC のような学術目的の加速器に関して言えば，複数の国が協力して加速器を使用し，分析などを行っていますし，その仕組みに関しても様々な情報があります．軍事機密になっているような事は何もないと思います.

加速器が思考の検出を可能にし，携帯電話での会話の様に，思考を脳に直接伝え合う事が可能な原理が存在すると仮定しますと，加速器を制作，維持する技術が最高軍事機密になっていると言うのも頷けます.

後述しますが，ニュートリノ線を用いる事により，未来の情報が得られる可能性（原理が）もあります．しかし，恐らく，観測する行為自体が未来に影響を与えてしまい，観測結果が絶えず変わって行くと言うような，取り留めのない現象が発生している可能性もあります.

---

[7]その当時（35 年近く前），私は電気理論に興味があり，少しの時間も惜しんで勉強をしていました．恐らく，その勉強に関係した書物だったと思います.

余談ですが,「日本の原子力発電所は，地震による津波が発生すると，非常用電源が喪失し大変なことになる」と言う文章を読んだ記憶もあります．その通りの事故が発生し，放射性物質だらけになってしまいました．残念なことです．私のような初学者でも知っていたわけですから …

5　未来が見える原理

特殊相対性理論を前提にした話をします.

ニュートリノ線は物質波です．光とは異なり，物質である素粒子の流れなのです.
この素粒子（ニュートリノ）には僅かですが質量が存在しますので，光と同じ速度に加速する事は不可能となります．どのような物質であっても質量がある限り光速に加速する事はできません．加速には無限大のエネルギーが必要となる事からも，この事が言えます.
としますと，光速に近い速度まで加速すると実に不思議な事が起こります.
飛行空間の中で素粒子の持つ時間の進みは遅くなり，相対論的に言って，飛行空間の時間の進みが早くなるのです．これは，未来の事象が反映された形で回生波が得られる原理となります.
勿論，ニュートリノ線自体は加速された速度で対象物に到達し回生します．この速度は光速よりも遅い事になります.

ニュートリノ線を用いて，その回生波を利用し，物体の状態を知る事が可能だと考えていますが，その行為自体が未来の情報を得る事になり，未来に影響を与えてしまうわけです.

ニュートリノ線を発生させる際に，伝搬スピードの異なる粒子が発生し，そのスピードに応じた相対論的効果が及びます．また，高出力なニュートリノ線ほど光速に近づくはずです.
更に，回生波を得るために，後発のニュートリノ線を干渉させる時間タイミングと，適切なパワーを設定する事が可能です．しかし，後発のニュートリノ線がどのような相対論的効果を与えるものなのか，私には分かりません
回生波が持つ情報を検出するために，加速器の内部で新たなニュートリノ線を発生，干渉させ，量子ジャイロスコープで検出可能な素粒子を得ます.
これらの操作により，相対論的時間位置[8)]を選択する事が可能だと考えています.

[8)] 知りたいと思う未来の時間位置の事です.

6　未来の情報

加速器により発生するニュートリノ線を用いて対象物を観測すると，その未来が分かる．と言う事を前提に話をします.

人は未来の事を考えますが，大体においてぼんやりとした未来像を思い浮かべます．しかし，加速器を駆使する者たちは，正確に何が起こるのかを知っている事があります．例えば，彼は事故で何歳で死ぬとか，将来にどの様な犯罪を犯すのか，などが分かるようなのです．それを前提にして付きまとい行為を行っているようです.

追い掛け回される者からして見れば，まだ犯してもいない未来に起こる事件事故でとやかく言われる訳であり，困り果ててしまう事になります.
つまり，身に覚えのない事なのに，あたかも犯罪を犯したかのような前提で，犯罪者を懲らしめる為，とした付きまとい行為などがあるのです.
セクション 2 で書いた「深夜のテレビ放送」のターゲットになっている人達も，実は，まだ犯してもいない事件で犯罪者扱いを受けて，付きまとい行為を受けているらしいのです.

当初，未来が見えると言う事の意味が分からずにいましたが，しかし，ニュートリノ線が物質波であり，伝搬速度は特殊相対性理論を適用できるような速度であると理解してからは，何故，未来の事に拘るのか分かるようになったわけです.
加速器を駆使する彼等にして見れば，手に取るように対象人物の未来が分かるのですから，当然の事なのでしょうが，追われる方からして見れば いい迷惑 としか言いようがありません.